

エリグロアジサシについては2箇所とも60.1dBとなっているが、建設機械の稼働位置から約1 Km以上離れた海上の小島であることを考慮すると、一定の減衰効果が見込まれることから、重要な種の生息状況の変化は極めて小さいものと考えられる。

以上のことから、ズグロミゾゴイを除く種については、建設機械の稼働に伴い発生する騒音による重要な種の生息状況の変化は極めて小さいものと考えられる。

ズグロミゾゴイについては、改変区域外の営巣地については、6地点(No.1~6)では60dBを下回り、2地点(No.7、8)では60.6~62.7dBとなっているが、タキ山東やキツヌングスクの残丘の樹林地が遮る形となるため、一定の減衰効果が見込まれる。改変区域内については、2年次の改変区域内にある1地点(No.15)における2年次工事期間中の直近での騒音は、約115dBとなるため、工事期間と繁殖時期が重なった場合には繁殖が行われないおそれがあるものと考えられる。また、3年次の改変区域内で確認された6地点(No.9~14)については、2年7月次から2年10月次までの4ヶ月間にわたり60dBを超過するものと予測されることから、工事期間と繁殖時期が重なった場合は当該地点における本種の繁殖率は低下するおそれがあると考えられる。また、この6地点(No.9~14)における3年次工事期間中の騒音は、直近では約115dBとなるため、工事期間と繁殖時期が重なった場合は繁殖が行われないおそれがあるものと考えられる。したがって、改変区域内の営巣箇所では繁殖率が低下するか、繁殖が行われないおそれがあるものと予測される。改変区域外については、建設作業騒音による生息環境の変化は小さく、周辺に水岳、カタフタ山などのまとまった樹林地が残存しており(p6-9-91~100「植生環境の変化による生息環境への影響」を参照)、利用可能な環境は残されることから、生息状況の変化は極めて小さいものと考えられる。

---

注1. 一柳英隆：人工雑音が野生生物に与える影響，平成14年度ダム水源地環境技術研究所所報，財団法人ダム水源地環境整備センター，pp80-84，2003